

【生薬名】葛根[㊦] *PUERARIAE RADIX*

【起源植物】クズ *Pueraria lobata*, *P. lobata* var. *chinensis*



【科名】マメ科Leguminosae マメ科

【別名】久須加豆良、玉蔓などと呼ばれていた

【薬用部分】周皮を除いた根、

サイコロ状を角製葛根、長い片切を板葛根という

【主成分】でんぷん、フラボン類、ダイゼイン、ゲニステイン

【薬性】気味は甘辛平、帰経は脾胃に属す

【効能】●解肌退熱・透疹・生津止瀉・滋潤筋脈

●鎮痛、鎮痙、催乳、頭痛、発汗に1日8gを煎服

●葛根湯やクズ湯は風邪の引きはじめによく効く

●肩や首の凝りと痛み、大腸カタル、ハシカ、神経痛など

●解熱、鎮痙、降圧、脳や心臓の冠血流量増加、消化管運動亢進、排便促進、血糖降下などの作用が認められている

●うなじや背中のかわばり、呼吸困難があって息苦しく発汗する場合にも用いる

●ダイゼインには鎮痙作用があり量に比例する、イソフラボンにはこの作用はない

●二日酔いに乾燥花を1回3～5g煎服するか、粉末にして白湯で飲む

【出典】●主治項背強也。旁治喘而汗出（薬徴）

●葛根 味甘、傷寒発表、温瘧往来、渴を止め、酒を解す。（薬性歌）

【備考】●花は天ぷらとして食べるとおいしい

●昔よりクズは食品としても親しまれてきた、吉野葛根が有名
葛饅頭、葛切り、葛餅、葛桜

●秋の七草の一つ「萩の花尾花葛花撫子の花女郎花また藤袴朝顔の花」

【処方例】●葛根湯、葛根湯加辛夷川芎、葛根黄連黄芩湯、参蘇飲